

第26回「市民の声」アンケート 集計結果

「市民の声」アンケートは、市民の皆さんの市政や生活環境に関する意識や意見などの傾向を調査し、市政運営の参考にするものです。2年に1度、実施しています（前は令和5年度に実施）。今回、7月に行った第26回アンケートの集計結果がまとまりましたので、抜粋してお知らせします。

貴重なご意見を参考に、今後の市政運営に取り組みます。調査へのご協力ありがとうございます。

基本項目・基本調査項目

住んでいる地区・年齢・職業などの項目のほか、行政分野に関する「市民実感度」について質問しました。

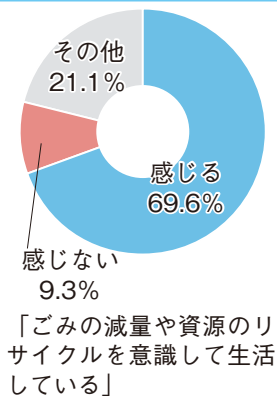
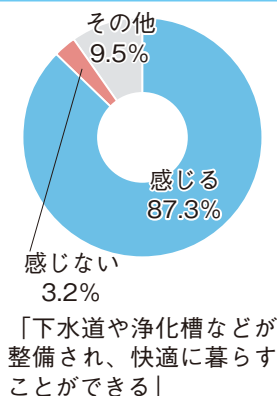
「市民実感度」とは、桐生市におけるまちづくりの指針となる「桐生市第六次総合計画」の指標の一つです。各質問に対する回答のうち「大いに感じる」と「やや感じる」を合わせた、「感じる」と回答した人の割合を「市民実感度」としています。令和元年度の調査から質問しており、今後の「市民の声」アンケートでも同様の質問をして、回答の推移を見ていきます。

●市民実感度が高い (上がった) 項目

前回調査と同様、安心して水道を使えることや下水道整備については、約8割から9割と、高い市民実感度を得られました。

環境への配慮や、ごみ減量への取り組みでも、7割近くの市民実感度があり、環境への関心がうかがえました。

都市基盤の整備では、重伝建地区をはじめとする歴史的町並みを生かしたまちづくりや、周辺都市へのアクセスに関する設問について、前回調査時と比べて市民実感度（感じる）が増加しました。

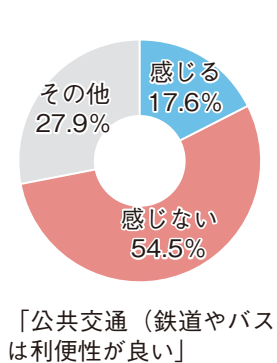
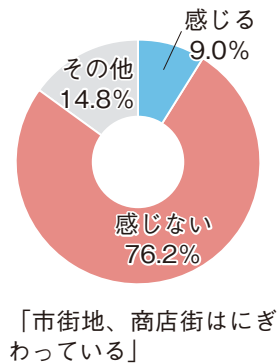


●市民実感度が低い (下がった) 項目

企業誘致や市街地、商店街のにぎわいに関する設問についての市民実感度は10パーセントを下回る結果でしたが、前回までの調査結果と比べると、市民実感度（感じる）の増加傾向も見られました。

公共交通や住環境などの整備に関する設問で、「感じない」と回答した割合が増加しました。

子育て支援や高齢者福祉などについては、前回調査時と比べて、市民実感度（感じる）が減少し、逆に「感じない」が増加しました。



※市民実感度とは、各質問に対して「感じる」と回答した人の割合
※「感じる」は「大いに感じる」と「やや感じる」の合計、「感じない」は「あまり感じない」と「感じない」の合計、「その他」は「どちらともいえない」「無回答」の合計

調査概要

調査地区	市内全域	調査方法	調査用紙を対象者に郵送で送り、郵送またはインターネット回答により回収
調査対象	18歳以上の市民	調査項目	基本項目6問、基本調査項目42問、個別調査項目32問
対象者数	1,500人	回収数	741人(前回1,012人)うちインターネット回答169人
抽出方法	無作為抽出	回収率	49.4%(前回50.6%)うちインターネット回答22.8%
調査期間	7月11日～31日		

個別調査項目

市政における次の15分野について、質問しました。

①幸福実感度②シティブランディング③生涯を通じた健康づくり④地域医療⑤防災⑥広報⑦きりゅう市議会だより⑧市内の移動⑨エス・ディ・エス⑩日本遺産⑪インターネット利用状況⑫桐ペイ⑬消費生活センター⑭空き家対策⑮水道事業

自由意見

自由意見記入欄には、295人の皆さんから、560件の意見が寄せられました。

※多くの意見（1項目につき20件以上）があった項目

①まちづくり・活性化②公共交通・交通施策③道路整備・管理④入札妨害・生活保護問題⑤全体的な市への批判・応援意見⑥市政運営⑦観光振興⑧商店街活性化⑨庁舎・施設管理⑩子育て支援 など

全文を読みたい人は

結果の全文を掲載した冊子は、市民相談情報課（市役所2階）、両支所、各公民館、市ホームページにあります。問い合わせは市民相談情報課 広聴・相談担当（☎323463）

こんにちは
市長です



「子どもがつくるまち
ミニきりゅう2025」

「子どもがつくるまち ミニきりゅう2025」を11月8日（土）・9日（日）に開催します。

「ミニきりゅう」は、今年で5回の節目を迎えます。7月の子ども会議では、記念事業として、市議会本会議場でミニきりゅう議会を開催しました。

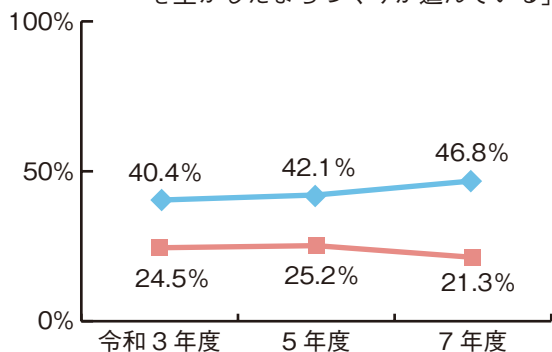
ミニきりゅう市長の所信表明に続き、各チームの代表がミニきりゅうのまちづくりについて、質問と答弁を行いました。真剣に議論する子どもたちの姿はとても頼もしく、大変感心しました。

ミニきりゅうを通して、たくさん子どもたちが、働くことの楽しさや社会の仕組み、お金の大切さなどを学びながら、桐生をますます好きになってくれることを期待しています。

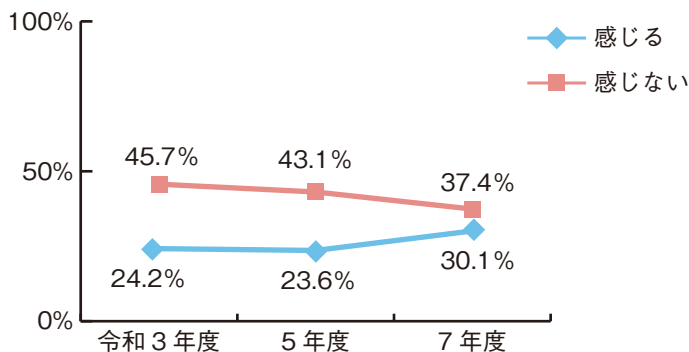
桐生市長 荒木 恵司

市民実感度が増加した項目

「重伝建地区をはじめとする歴史的町並みを生かしたまちづくりが進んでいる」

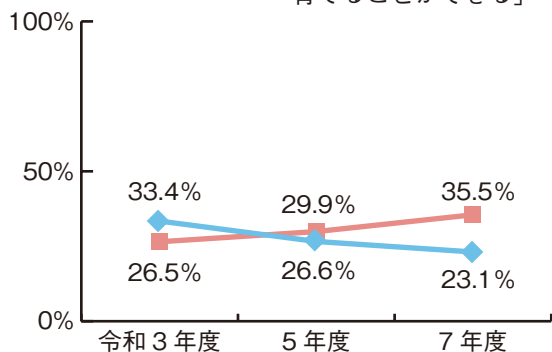


「市中心部や周辺都市へ快適にアクセスできる道路網が整っている」



市民実感度が減少した項目

「安心して子どもを産み育てることができる」



「高齢者にとって暮らしやすい」

